

特定非営利活動法人エフエムわいわい 2020 年度事業報告書

◆総括

1995 年の震災から始まった「コミュニティの必要に応じ、コミュニティの人々からの受発信」として生まれた「FM わいわい」(以後 FMYY)。

その求めるところは、時間の経過、社会変化、配信形態の変化があっても、26 年前の阪神・淡路大震災の被災地での「等しく情報が届いているか? 違いのある人々に気づく」という基本理念が脈々と繋がり、だれもが自分らしく生きる社会構築のため声を上げる「場」であるということにかわりはない。



この地の震災が生み出した FMYY は『言語のバリアーを越えていく!』というツールであると同時に、「ひとり一人の声を聴く」「年齢、性別、属性などいろんな違いに寄り添う存在」であることは、「コロナ災害」においてもオンラインを活用した語りの場を継続できたことは、うれしいことであった。(写真は Zoom で制作した YY キッズラジオ)

スタジオでの出演の場合は、人数制限、24 時間換気、入室前ドアの開け放し、手作りの透明遮蔽板をスタジオに設置し、非接触体温計、足踏み式アルコール消毒スタンドなど可能な限り感染予防に努め配信に及んだ。またそれぞれの外国語番組における「感染予防諸注意」そして日本ではそれまで流通していなかった文言「非常事態宣言」「蔓延予防措置」などの日常生活での対応や特に「非常事態宣言」の翻訳については本国での文言の使用用途と日本での意味合いの違いからくる誤解が起こらないようにすることに留意するなど、定住外国人にもいろんな支援対策が届くと共に、自己管理のための知識共有にも配慮した。(写真はスタジオでの配信風景、出演者の間隔、間にクリアな遮蔽板、消毒液常備)



また、コミュニティラジオを通じた海外とのネットワーク、経験共有はコロナ禍にもめげずに継続し、特にインドネシアと続けているコミュニティラジオを活用した防災力の強化事業は、ネパールなど他の地域にも共有が進んでいる。

I 事業

(1) 多文化共生のまちづくりに資するコミュニティメディア事業

ア) コミュニティメディアとしての事業

FMYY ホームページの音源掲載 (オンデマンド配信)、と連携した Podcast、YouTube を使った動画。

①番組の配信形態・配信システム全般について

- FMYY ホームページの音源掲載/Podcast でのアーカイブ化
- 2020年5月 Web サイトにコロナ感染症関連の**情報集約タグ**を制作。



●関西学院大学総合政策学部山中研究室との連携事業と学生番組。

新型コロナウイルスというのは、新たな災害とも言える。その渦中にある次世代を担う学生たちに、避難所とも言える自宅、下宿での生活についての生活について映像番組制作を実施。

阪神・淡路大震災を知るための「データ」「人が語る」という2種類の動画制作を実施。次年度これを次世代の学生が視聴し、アンケート形式で災害に対する知恵の継承に必要なキーワードを抽出。

今後の災害に対してメディアが果たす役割について検証する。その2年目とした。



(左の写真はデータで読み解く阪神・淡路大震災。右下の写真は関西学院大学の学生制作番組)



- 第1次第2次非常事態宣言を受け、カトリックたかとり教会の方針に合わせて遠隔での録画配信。
- STAYHOME の対応をされる番組担当者の番組は現在配信休止。
- 番組内音源は著作権に対しての承諾のあるものみの対応。
- 番組内使用音源は、制作者と覚書を交わし活用。
- 収録番組の場合は Zoom 機能や Line テレビ電話機能など相手に合わせたオンライン対応で収録。

②配信番組

カテゴリー	番組名	放送形態
ダイバシティ	スペイン語番組「Latin-a」	週 1 YouTube/Facebook 生配信
	ベトナム語番組「HÃY AN NHIÊN MÀ SỐNG」	月 2 YouTube/Facebook 録画 Zoom 中心
	タガログ語番組「AWEP あんしんつうしん」	月 1 YouTube/Facebook 録画編集
	韓国・朝鮮語番組「즐거운 잔소리 시간」	5月から休止
	奄美専門チャンネル「南の風」	5月から休止
	らの会わいわい by ネットワークながた	月 1 YouTube/Facebook/Zoom 中心
社会への提言	コミュニティ AD	随時 YouTube/Facebook 録画クロマキー
未来・次世代	わいわいキッズラジオ	月 1 月 1 YouTube/Facebook/Zoom 収録
	放課後ジュニアラジオ部	月 1 月 1 YouTube/Facebook/Zoom 収録
交流・参加 (居場所)	ワンコイン番組	非常事態などに合わせ対応
	街ブラ～人と街とくらしを探る	月 1 YouTube/Facebook 録画クロマキー
	ゆうかりに乾杯！	5月から休止

*その他に他団体による FMYY の配信設備を活用した情報発信を行った。

- ・神戸市兵庫区社会福祉協議会のコロナ感染予防の情報提供動画に呼応した質疑応答。



2020 年度は世界的パンデミックがおき、オンラインでの情報発信を各種業態が急遽求められた。カメラ、マイクだけではなく、通信環境や照明、防音など聞き手の快適さを担保する事は、実は容易では無い。時には必要なものが何か分からない。その点、わいわいにはラジオ時代から必要な資機材がスタジオという資産に集約されており、近年は YouTube live の配信と言った知見も整っている。わいわいが他者と協働し配信を支える事は最初の一步を踏み出す上で多くの市民活動の後押しとなる。

私 (FMYY 理事長谷部治) が働く社会福祉協議会でもわいわいの YouTube Live を活用して、『手洗い、消毒、換気、ハンドケア』をテーマに講座を配信した。パンデミックという災害下においてわ

いらいが、後押しできる市民活動はまだまだあるのではないだろうか。

③動画制作

「1.17KOBEに灯りを in ながた」学校でのロウソクづくりが中止となり、動画で1995年の震災について、そして去年度まで実施していたロウソクづくりについて紹介動画を制作し、動画を活用して講和を実施。

「神戸市中央区社会福祉協議会」家族が認知症になった時の心構えなど、中高生対象の勉強会用動画。

「Opera di FIORE」芸術家たちも公演やライブが中止、ネット配信用動画の制作を行った。



④多様性の発信イベント

日時	名称	参加形態
4/29	第16 長田の園遊会 花水木まつり	中止
7/17・18	夏越ゆかた祭 ゆかたでナイト2020	中止
8/1.2	大国公園なつまつり	中止
10/11	第17 回輝け！集まれ！ながたっ子祭	中止
11/22	第26 回一七市拡大版2017 『あの日に思いやりの心』を忘れぬために～改めて災害に備える心～	中止
1/17	第22 回 1.17KOBE に灯りを in ながた	竹募金の回収とお渡しのみで開催。

※ほぼすべてのイベントが中止となった。

(2) 災害の被災者支援・防災力強化事業

ア) 防災力強化海外事業

①インドネシアでの災害ラジオを活用した地域防災力強化



学校の先生達がラジオを使って授業を行っているのだ。子ども達は教科書を開いて、ラジオ受信機や携帯電話に付いているFM受信アプリから流れてくる先生の授業を聴く。質問はSMSで先生に送り、先生は電波を通して、その質問を読み上げ、答えを伝える、という双方向の授業が続けられている。



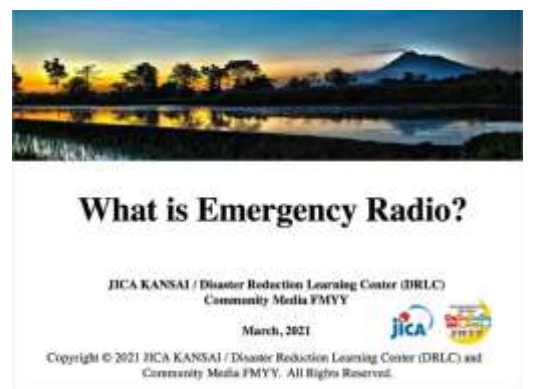
インドネシア、日本、南アジア（ネパール、インド、バングラデシュ、パキスタン）の災害ラジオの現在と課題を共有するオンライン国際セミナーを開催。

2017年7月からスタートしたJICA草の根技術協力事業フェーズ2「官民協働によるコミュニティラジオを活用した防災力強化事業」（事業期間：2017年7月から2021年7月まで）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、FMYYの担当スタッフの現地渡航ができず、現地スタッフの事業実地地域での活動が制限され、オンラインベースでの活動を軸に事業を進めた。

特筆すべきことは、遠隔教育を目的とした臨時“災害”ラジオ局の開設支援に力を入れたことである。コロナ禍で現地の小中学校も閉鎖になり、オンラインで授業が実施されたが、小中学校の多くは村落にあり、さくさく早いインターネット環境がある訳ではなく、パソコンやタブレットがある家庭はほんの僅かである。また、インターネット端末があったとしても、インターネットへのアクセス料金はほとんど従量制で、とても毎日毎日数時間分を払えるような余裕はない。そうした厳しい環境にある子ども達の教育の機会を保障するために、遠隔教育を目的とした臨時“災害”ラジオ局の開設支援や遠隔教育を目的とした臨時ラジオ局の法制度の整備に努めた。2021年度のオンラインを軸に事業を進めていくことになり、事業期間を2022年3月15日まで延長する予定である。

②「コミュニティラジオと防災」をテーマにしたオンライン教材の制作

阪神・淡路大震災。東日本大震災やインドネシアの被災地で救援、復旧、復興を支えてきた災害ラジオやコミュニティラジオの活動を、世界に伝えるために、英語と日本語のオンライン教材をJICA関西と制作した。ナレーション付きのスライド約90枚と映像3本から構成されている。2021年度からJICA研修やAMARCを通して活用される。



③関西学院大学総合政策学部山中研究室との共同調査

関西学院大学総合政策学部山中研究室と協働で実施する「災害後世代による災害記憶の継承に関する国際共同調査（2020～2022）」において、FMYYのJICA草の根事業の実施地域であるインドネシアのムラピ山とジョグジャカルタで災害記憶（ムラピ山噴火2010年、ジャワ中部地震2006年）の継承に関する震災後世代に対する意識調査をアトマジャヤ大学ジョグジャカルタと協力して実施した。2021年度はインドネシアコミュニティラジオ協会、アトマジャヤ大学ジョグジャカルタと協力して、ムラピ山麓のコミュニティラジオ局で災害記憶継承番組の制作／放送、および、その番組視聴者に対する視聴

反応調査を実施する。

イ) 防災力強化国内外共通事業

①神戸市危機管理室との連携

神戸市危機管理室と2020年6月覚書締結が完了。「行政から流れる情報へ外国人がアクセスする」という思考から、すでに多くのリスナーを持つ定住外国人コミュニティの番組配信継続を支援ということで、やっと締結。少額ながら、ベトナム夢 KOBE、アジア女性自立プロジェクト、ひょうごラテンコミュニティ、MasayangTahanan にその支援金として分配することができた。今回のコロナ災害におけるコミュニティからの情報配信の有用性が大きなインパクトとなった。

②隔月開催の神戸復興塾 311 支援集会

被災地支援の情報共有や訪問者があった時に報告者として参加。

③包摂都市ネットワーク・ジャパン委員会に参加

「外国籍住民との共生」について Zoom でのセミナー参加や登壇。

④在日ベトナム人コミュニティ向け防災セミナー

JICA 関西がスタートした国内における在住ベトナム人防災リーダー育成事業の企画づくりに参画し2020年12月と2021年3月に、日本における防災の取組を学ぶ機会を学ぶセミナーの実施に協力した。2021年度も継続してこの事業に協力をしていく。

⑤JICA 関西の企画展示（「防災と多文化共生」に出展）

JICA 関西で2020年12月1日（火）から2021年4月25日（日）まで「防災」「多文化共生」をテーマに開催された企画展示で FMYY の開局時の機材や神戸、インドネシア、ネパールでのコミュニティラジオと災害ラジオに関する活動写真の展示を行った。



⑥東日本大震災 10 年オンライン防災に参加

東日本大震災から10年を迎えた東北の人たちが中心になって、国境を越えた防災の取組を学ぶオンラインイベント（2021年3月6日開催）に参加し、インドネシアのムラピ山と同時中継し、Lintas Merapi FM (Sukiman さん) や Cangrangan (Andi さん) でのコミュニティ防災の取組を、Cangrangan で博士論文を執筆した間中光さんをモデレーターに伝えた。

(3) 多文化共生のまちづくりに資する場づくり、研究、教育、啓発事業

ア) 教育現場との連携

①大学・高校・中学・小学校・研究者(国内外)

形態	大学・研究者(国内外)
インターン受け入れ	ほぼすべての大学が自粛。
講義(非常勤講師)	神戸親和女子大学、神戸常盤大学、兵庫県立大学、神戸学院大学、神戸神港橋高校、関西学院大学、龍谷大学、同志社大学、立命館大学
研修/フィールドワーク	ふたば学舎震災学習、JICA 関西ベトナム人コミュニティの防災力アップ、

番組を活用した調査	関西学院大学総合政策学部メディア情報学科山中速人研究室「10年目の継続取材、阪神・淡路大震災の経験を語り継ぐ」
JICA 関西訪問プログラム	中学生や小学生の番組担当者に、JICA 関西での講義・防災展示見学をすることで世界との接点を実感してもらう機会とした。

イ) 企業との連携

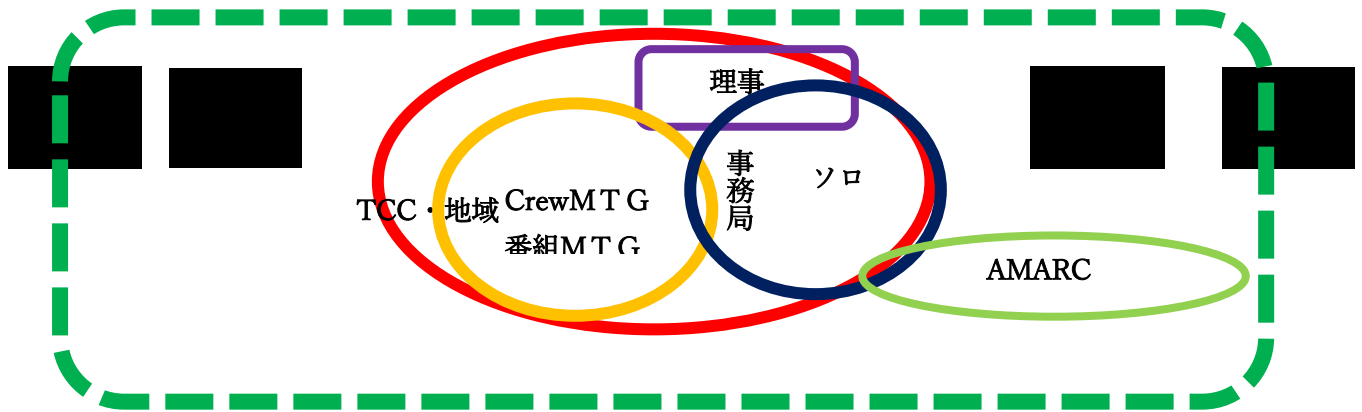
NPO 広報力向上委員会「伝えるコツ」委員会委員。
大丸神戸での社員向け広報力アップ講座を開催。

ウ) NGO と行政の連携(NGO/NPO 団体と JICA 関西や研究者などをつなぐ)

兵庫・国際協力同士の会(HYOMIC)の幹事団体としてセミナーを2回開催した。

II 管理・運営

(1) 団体の運営体制



データベース強化 ホームページの将来像を 見据えた一部改訂	<ul style="list-style-type: none"> ・Salesforce 研修を受講した大川から事務局全体にその活用方法の共有する予定 ・三菱・赤い羽根助成金で外国人住民のアクセスが簡便になるための改定を委託。
-------------------------------------	---

運営形態		
FMY 事務局	火・木・土	大川(時短) 金・緒方・古寺・日比野・岡戸
理事		大川・金・日比野・長谷部・大坪・大城・橋爪・李(8名)
監査	年度末	森崎・高
会計	火・木	古寺
正会員	会員総会	大川・金・緒方・日比野・長谷部・大坪・橋爪・李・高松・佃・神田 吉富・金山(勉)・金山(知)・小川・中村・中嶋・和田・松浦・吉野・ 関本・坂田(渡部)・大城ロクサナ・野田北ふるさとネット(24名)
賛助会員	会員総会	17名(3口の方1名)
一般会員	会員総会	53名

NEWS 購読者 一般会員	適宜会員総 会	2021年5月現在登録者数336名。2020年11月から配信方法変更
防災連絡網 CrewML	適宜適宜	LINEで配信
防災連絡網	適宜	LINEで配信

(2) 2020年度決算・監査

別紙参照

(3) ファンドレイジング

個人寄付：FMYYの名前で大学の講義/司会/フィールドワーク対応などの事業を行った場合、2割をFMYY会計に個人寄付として入れる。FMYYへの直接振り込みの場合は、2割を寄付

企業寄付：日本フィランソロピー協会の推薦により、大和ハウスグループの従業員の方々から寄せられた寄付（2021年度エンドレス募金）を頂くことになった。2021年11月と2022年5月の二回（一回25万円以上）。

一般寄付：上記とは別の純粋な寄付。

使途指定寄付：使途を指定しての寄付。

(4) アカウンタビリティセルフチェック=ASC

JANIC(下記URLを参照。国際協力NGOセンター)が提唱するセルフチェックを行い、2018年6月より実施したことを証明するマークを取得した。FMYYのいろんな広報ツール(チラシ、名刺など)に活用している。

<http://link.janic.org/more/accountability/selfcheck/>



(5) その他特記すべきこと

第46回 放送文化基金賞 受賞 https://www.hbf.or.jp/awards/article/46_bunka#s2

阪神・淡路大震災から25年にわたる地域ラジオ活動、及び全国・海外の被災地ラジオ支援活動

◆2019年度 総会開催

日 時：2020年6月27日（土）13時から15時まで

場 所：FMYYスタジオからのネット配信

◆2019年度 理事会開催

第一回

日 時：2020年6月13日（土）9時半から11時半まで

場 所：ネット会議

第二回

日 時：2020年7月5日（日）19時から20時まで

場 所：ネット会議

第三回

日 時：2020年11月17日（火）18時から20時まで

場 所：ネット会議